



世界に希望を生み出そう

WEEKLY REPORT

高松東ロータリークラブ 週報

会長:藤井 武志 幹事:藤野 讓二



高松東ロータリークラブ

プログラムのご案内

今週

(創立第2612回) 令和05年09月26日

客話「あおぞらってどんな銀行？」

ファイナンシャルプランナー
村川 万須美 様

次週

(創立第2613回) 令和05年10月03日

卓話「最近のIT業界におけるトピックについて」

国際奉仕委員会
片松 保佳 君

前週例会レポート

創立第2611回例会出席報告 令和05年09月12日

前々回の訂正	会員総数	出席免除会員
08/29 100%	46名	(a)0名 (b)9名
出席計算に用いた会員数	出席会員数	出席率
39名	27名	69.23%

会長報告

今日は月見例会です。

月見は1年の中で最も空が澄み渡る旧暦の8月に、美しく明るい月を眺める行事のことで、十五夜とも言います。

もともと十五夜は旧暦の8月15日とされていました。2023年の旧暦の8月15日は9月29になります。

9月29日には是非夜空を眺めて明るい満月の月を見ていただけたらと思います。

平安時代から始まったと言われていたが、無事に稲を収穫できた喜びを分かちあい、感謝する日であったそうです。

また昔から「月にはうさぎがいる」といいます。うさぎ、キツネ、猿の3匹と、3匹から食べ物をもらおうとする老人が登場するインドの神話が元になっていると言われていました。

3匹は老人のためにそれぞれ食べ物を持ってくることにしました。

キツネは川で魚を捕り、猿は木に登って木の実をとってきましたが、うさぎは何も持ってこれませんでした。そこでうさぎは「私を食べてください」といって火の中に飛び込み、自分の体を老人に捧げます。

実は、この老人は3匹の行いを試すためにやってきた帝釈天(たいしゃくてん)という神様でした。うさぎをかわいそうに思った帝釈天は、その姿を「自己犠牲の尊さ」を説くお手本として、月に残すことにしたということです。

今日はご家族も来ていただいていたの例会です。楽しい1日になりますようお願いご挨拶に致します。